

4の3 国語科学習指導案

5 / 26 (木) 6限
4の3教室 加納 篤

1 単元名 話し合いのしかたについて考えよう

2 単元のねらい

よりよい話し合いのために自分に何ができるか考え試行錯誤することを通して、自他の考えを関係付け、役割を果たしながら進行に沿って話し合うことができる。

3 単元でめざす学ぶ楽しさ

よりよく話し合うために必要な事柄に気づく楽しさ
それを実践することで実際に話し合いがよくなる感覚を味わう楽しさ
言葉によって自分を開いたり人と協働したりすることで得られる受容感や達成感

よりよく話し合うためには、目的・相手・時間・方法・場面・評価等に対する意識や、分かりやすく自分の考えを話したり他の考えを適切に理解したりする技能、目的に向け協働していこうとする態度が必要になる。これらの事柄は、誰かに教えられただけでは身につくものではなく、子ども自身が体感を伴って経験しふり返ることで、言葉の力として働くようになる。身についた言葉の力は、アクティブリスニングする子どもの姿に表れる。

そこで、本単元では、まずこれまでの自分たちの話し合いの実際をふり返り、できていることと問題点を洗い出しクラス全員と共有する。次に、どうすればよりよい話し合いになるのか考え合う。実は、この考え合う言語活動自体も話し合いであるので、主張していることと行動していることのギャップに気づいたとき、本当の意味で「自分事」としてとらえることができるだろう。この発見により「学ぶ必要感」が高まる。また、第二次では実際に子どもから出された議題について話し合う活動を設定する。ここでは、理屈では分かったつもりでも、なかなか言いたいことが伝わらないもどかしさや、話し合いがうまく進まないいらだちをもつ子どもが出るだろう。しかしこの失敗体験も、解決したときには、分かってもらえた喜びやみんなで合意にたどり着けた成就感につながり、アクティブリスニングのよさに気づくことになる。これが、本単元でめざす「学ぶ楽しさ」である。

4 単元計画（総時数5時間）

主な活動と内容	学ぶ楽しさを味わうための手だて
1 これまでの話し合いをふり返り、どんな話し合いをできるように なりたいか考え合う (2時間) ○これまでの自分たちの話し合いの実際をふり返り、できていることと問題点を洗い出し、クラスで共有する。 ・みんなに聞こえる大ききで話せているかな。 ・誰かが発言しているときに、隣と話している子がいるよ ・発言してよかったって思える話し合いがしたいな。 ○よりよい話し合いをするためには、何に気をつければいいのか考え合う。 ・自分と違う意見を聞いたときは、反対するより先にそう考える理由を想像したらいいんじゃないかな ・強く主張するばかりでなく、相手の考えを聞いて考えることが大事ということ？ ・どうしたら「聞いて考えた」って伝わるの？	(1)言葉との主体的な対話を促す 見本となる話し合いの映像を視聴し、自分たちの話し合いと比較することで、体験と課題をつなぐ。 第一次で子どもが見つけた「話し合いのコツ」をもとにチェックシートを作成し、第二次での話し合いを観察させることで、話し合いそのものを認知できるよう促す。 (2)他の考えとの協働的な対話を促す 兄弟班で見合う状況を作り、協働的にふり返らせることで、自分の気づかなかった視点からの指摘について考えたり、自分の工夫を認めてもらえた喜びを味わったりできるようにする。 (3)自分の学びとの省察的対話を促す 話し合い中、教師はあえて口を挟まず、ふり返りの後、子どもの学びと本時の活動を結びつけ、言葉の力に照らして子どもの学びや成長の自覚を促す。
2 考え合ったことを生かし、クラスの問題を解決する (3時間) ○今、解決すべきクラスの問題を洗い出す。 ○2班ずつ、それぞれの議題についての話し合いを観察し合い、よりよい話し合いについて共有する。 (本時) ・聞いてるよって伝えることは大事なんだと改めて思いました。 ・言いたいことがうまく言い表せなくて悔しかった。	

5 本時の学習（第二次中3時）

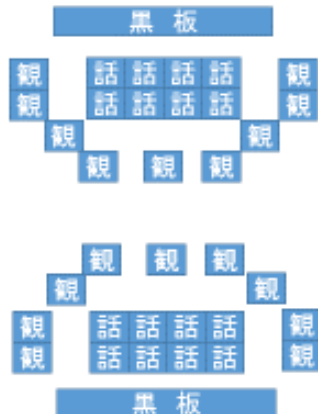
(1) ねらい

分かってもらうために理由や事例を挙げ、聞き手の反応を見ながら説明することや、自分の考えと比較しながら聞き、聞いていることが話し手に伝わるように反応を返すこと、いろんな視点から考え直すことなどの、よりよい話し合いをするために必要な事柄をとらえ直すことができる。

(2) 本時における学ぶ楽しさ

「うまく話せなくても大丈夫なんだ、完璧に理解できなくても、足りないところはみんなで考えていけば話し合いは深まるんだ。」というアクティブリスニングのよさを体験する楽しさ

(3) 展開

時	学習活動と子どもの姿	学ぶ楽しさを味わうための手だて				
2	1. 本時の課題と活動を確認する					
	＜見つけた極意を使って、よりよい話し合いをしよう＞					
20	2. 2・4班は、自分たちの選んだ議題について話し合う 1・3班は、兄弟班の話し合いを観察する	(1)言葉との主体的な対話を促す 話し合いの最中にも課題を意識できるように、下図のように観察グループに見られている状況を作り、チェックシートに自己評価と相互評価を書き込むことで気づきを促す。				
	<table><tr><td>話し合い（2・4班）</td><td>観察（1・3班）</td></tr><tr><td> - 私たちの班は、「どんな授業をしていくか」について話し合います。わけは、今授業中にふざける人がいて… - 少しくらいなら、ふざけてもいいと思います。授業が楽しくなるから。 - 楽しい人は、一部だと思います。それに授業が進まないし嫌な気分になる人もいると思います。 - 手遊びや隣としゃべってしまうのもふざけていることになるの？ … </td><td> - 始めに議題を言って、後から理由を言うのは分かりやすいな。 - 正直に自分の気持ちを言うのがいい。 - なんか話し合いと言うよりはけんかしているみたい。 - いろんな人のことを考えないといけないんだな。 - 本当だ。僕自身はふざけたことはないと思っていただけ、話を聞いていないときはあったな。 - どうやってまとめるの？ … </td></tr></table>	話し合い（2・4班）	観察（1・3班）	- 私たちの班は、「どんな授業をしていくか」について話し合います。わけは、今授業中にふざける人がいて… - 少しくらいなら、ふざけてもいいと思います。授業が楽しくなるから。 - 楽しい人は、一部だと思います。それに授業が進まないし嫌な気分になる人もいると思います。 - 手遊びや隣としゃべってしまうのもふざけていることになるの？ …	- 始めに議題を言って、後から理由を言うのは分かりやすいな。 - 正直に自分の気持ちを言うのがいい。 - なんか話し合いと言うよりはけんかしているみたい。 - いろんな人のことを考えないといけないんだな。 - 本当だ。僕自身はふざけたことはないと思っていただけ、話を聞いていないときはあったな。 - どうやってまとめるの？ …	
話し合い（2・4班）	観察（1・3班）					
- 私たちの班は、「どんな授業をしていくか」について話し合います。わけは、今授業中にふざける人がいて… - 少しくらいなら、ふざけてもいいと思います。授業が楽しくなるから。 - 楽しい人は、一部だと思います。それに授業が進まないし嫌な気分になる人もいると思います。 - 手遊びや隣としゃべってしまうのもふざけていることになるの？ …	- 始めに議題を言って、後から理由を言うのは分かりやすいな。 - 正直に自分の気持ちを言うのがいい。 - なんか話し合いと言うよりはけんかしているみたい。 - いろんな人のことを考えないといけないんだな。 - 本当だ。僕自身はふざけたことはないと思っていただけ、話を聞いていないときはあったな。 - どうやってまとめるの？ …					
8	3. 1・3班は、兄弟班の話し合いについて感想を伝える ○時間です。観察班も加わってふり返りなさい。 ・△△さんの意見が、相手の立場に立って理由も言っていたので、そうだなって思えたよ。私も真似したいな。 ・4班の話し合いは、誰かが話しているとき、他のみんなが気持ちのいい反応をしていて、私まで意見を聞いてもらいたくなったよ。 …	(3)自分の学びとの省察的な対話を促す 自分がどんな過程で何を学んだのかを伝えさせることで、自他の学びを共有させるとともに、言葉の力との接点を示し、新たな気づきを促す。 (例) どうしてそれが、よりよい話し合いと言えるの？				
15	4. クラス全体で、本時の学びをふり返る ○今日までの話し合いの授業で学んだことを書きなさい。 ○みんなに自分の学びを広めてくれる人はいませんか。					
相槌を打ってくれたり質問してくれたりして、私の話をちゃんと聞いていてくれてるって思えると私もいっぱい考えることができたから、「ちゃんと聞いてるよってことを伝えること」はとても大切だと思いました。みんなのいろんな考えが聞けて、とても楽しかったです。これからも、こんな話し合いをしていきたいと思います。						

